

高野山団参のご案内

五月十四、十五日の両日、奈良と高野山へのお参りを計画いたします。十四日は奈良の東大寺の大仏と、中国の僧、鑑真の住持した唐招提寺にお参りします。夕方高野山へ登り、宿坊龍泉院に一泊をして翌日に高野山の中をお参りします。普通の観光では出来ない霊場高野山の雰囲気を感じ、存分に味わっていただきたいと存じます。すでに行程表ができていますのでご希望の方はお電話ください。

料金は一泊五食で三万二千元見当です。

真言宗の基礎知識(その三十八) (弘法大師)

弘法大師が高野山を開創され、お大師様自身の修行の場所として、またお弟子様方の教育の場として発展を遂げました。今では日本の総菩提所としてお大師様信仰と仏教都市の色合いが濃くなっております。

昔から、日本では人が亡くなったらその魂は山に登り集まるとの信仰がありました。平安時代の大権力者藤原道長が治安三年(1023)に高野山に参詣し、經典を納めて以来、皇族や貴族が大勢参詣にいられています。そして、天仁元年(1108)には堀河院が奥の院にお経とともに納髪をされています。この法皇様が納髪をしたのは大きな影響を及ぼしたようで、それ以来、高野山の浄土信仰と弘法大師信仰が広がり、今日まで長く受け継がれてまいりました。

昔、僧侶は公に認められていた僧侶たちと、公認でない聖(ひじり)に分かれていました。公認の僧侶は官僧と呼ばれ、皇室や貴族たちのために祈り、講釈をしましたが、高野山でも官僧だけではなく、密教の教えを離れて、念仏を唱え、あるいは修験道の山伏をする半僧半俗の人たちも集まり、高野聖(こうやひじり)という集団を形成してまいります。この聖が高野山に納骨をする勸進を全国を回りながら宣揚しました。

毎月の薬師如来護摩祈願

毎月第四土曜日の午後一時半より薬師如来護摩祈願を上之坊本堂にてお勤めしております。

ご祈願料は、大札で五千元、小札で三千元となります。

お参りの方は、一時半までに上之坊にお越し頂き、ご一緒に多宝塔にお参りした後、書院で授戒をお受けいただきます。その後、本堂の内陣にて護摩の炎を身近に受けながら祈願をいたします。

三時過ぎには終了いたしますが、護摩祈願にご参加いただける数少ない機会です。ので、お願い事があれば(厄除けや病氣平癒など)是非お参りください。

なるべく前日までに電話にてお申込みをお願いします。なお、四月二十七日の次は、五月二十五日、六月二十二日、七月二十七日に行われる予定です。

上之坊だより



令和元年5月1日
第83号
福山市大門町大門325
電話 (084) 941-1031
fax (084) 941-1168

弘法大師聖語抄

道を聞いて動かずんば、

千里いづくんか見ん。

川を行く水は決して留まらず動き続ける。同じように世の中の出来事も少しずつ変化してきている。

元号も平成が終わり、五月に令和元年となった。令和の世はどんな時代であろう。平安時代であったてほしい。お大師さまの文では「いくら立派な教えを聞いても実行しなければ何も変わらない」と説かれている。

我々是否応(いやおう)なく

川を行く水は決して留まらず動き続ける。同じように世の中の出来事も少しずつ変化してきている。

元号も平成が終わり、五月に令和元年となった。令和の世はどんな時代であろう。平安時代であったてほしい。お大師さまの文では「いくら立派な教えを聞いても実行しなければ何も変わらない」と説かれている。

我々是否応(いやおう)なく

川を行く水は決して留まらず動き続ける。同じように世の中の出来事も少しずつ変化してきている。

元号も平成が終わり、五月に令和元年となった。令和の世はどんな時代であろう。平安時代であったてほしい。お大師さまの文では「いくら立派な教えを聞いても実行しなければ何も変わらない」と説かれている。

我々是否応(いやおう)なく

上之坊ホームページ作成のご案内

上之坊も遅ればせながらホームページを作成中です。一月から試験的に作成を始めており、既にご覧頂くことが可能です。

今後は寺主催の行事などのご案内も掲載いたしますので、時々ご覧いただければ幸いです。

特に高野山や四国の巡拝の日時や金額など早めにご案内をしたいと考えております。

ページの中には、毎月実施の護摩祈願の様子を写したビデオや、各種行事の写真も掲載しております。

まだ検索してもたどりつけないと思いますがご容赦願います。

ホームページのアドレスは下記のとおりです。

<http://happa-h.com/kaminobo/>

上之坊 令和元々四年度 中期事業計画

昨年十一月に本堂の修理工事が終り、今年一月から薬師護摩供が毎月第四土曜日に実施されています。今までの星祭りや土砂加持の護摩も含め、先祖供養以外に護摩祈願も上之坊の特徴となりました。

寺内の整備事業では、今春二月よりユギ塔の造作が大森社長と神原正吉氏で本格化しました。四月末現在、屋根の張出しに進んでおり、毎週一回工事をしております。

同じく二月より本堂の西側の庭を整理して、樹木と庭石を北庭へ移動し整地が終了しました。

現在計画進行中の事業は納骨堂の建築です。これは本堂の西側の庭に縦横三つの石堂を設け、檀家の方のみお骨をお預かりする計画で、今年一月に総代会で三社からの計画案の説明を受け、多数決でオカダ石材で施工を進めることになりました。今後検討を重ね、保管料や使用方法など作成してまいります。

なお、この工事が終了し次第、横門の再建工事に入りたいと考えております。総工費は九百万円

(税抜)で大森工務店が設計・施工をしています。

この二つの事業については檀徒の方からのご寄附ではなく寺の積立金取り崩しと一部篤志志納(寺族寄附)を利用して建設を進めてまいります。

次に、来年(令和二年)十二月を目安に、二字戒名授与の会 仮称「玄冬会」を発足させ、出家の作法《得度式》をし、年二回勉強会を始めることを考えております。二字戒名とは葬式の時などにお渡しする戒名の中で、信士信女(居士大姉)のすぐ上に書かれる二文字の漢字のことで、この二字戒名だけを相談し、無料でお授けをし、普段の生活をしながらも、深い智慧の世界を経験してもらいたいと考えています。

具体的には写経や写仏、座禅(阿字観)などの体験を考えています。今後、総代会で計画を構築をして具体化してまいります。

また、令和三年に納骨堂や横門完成などの境内整備を終えて、稚児行列や十三参りを併せての落慶法要が出来ればと考えております。

今後、ご寄附をお願いするのは、令和四年春以降、門前の遊休地に集会所《ユガ堂》を構想もありませんがこの時であると思います。

以上はすべてまだ住職の構想の段階であり、随時総代会で協議をお願いしたいと思っております。